Ⅰ地形・歴史 Topography & History

1 地形等

阿武隈高地の大滝根山を水源とする延長 67.1km の夏井川が北部から、その支流の新川が南部を西から流れ、平北白土で合流して南東に流れ、太平洋に注いでいる。

地区は、沖積平野と丘陵地により形成されており、市街地と住宅地、農耕地に利用している。夏井川下流の広い沖積地は、耕作地の大半を水田として利用されている。

2 歴史

律令時代(奈良～平安時代)、平下大越の夏井地区には本市の北半分を管轄する磐城郡衙(ぐんが)が置かれ、郡司「磐城臣(いわきのおみ)氏」が統治していた。

延長 5 年(927)の「延喜式神名帳」には、大国魂、佐麻久嶺、子鍬倉の各神社が記されている。

文治 2 年(1186)源頼朝は石清水八幡宮の分霊を奉持した使者を好嶋荘に下向させた。八幡宮の造営は、赤目崎物見岡(平旧城跡から八幡小路にかけての台地)に、元久元年(1204)から 4 年がかりで行われた。

鎌倉時代には岩城氏が岩城郡及び好嶋荘の地頭になった。15 世紀の中頃岩城氏は、本拠を長友館(四倉長友)から白土城(平南白土)に移し、文明 15 年(1483)飯野平(大館)城に移るまでの間、本城として磐城地方統一を成し遂げた。関ケ原の合戦後、岩城氏は所領を没収され、替わって鳥居氏が磐城 4 郡 10 万石として入領、飯野平赤目崎物見ヶ岡に磐城平城を築城し城下町の整備を行った。江戸時代初代鳥居氏に替わって上総国から内藤氏が 7 万石で入領、小川江、愛谷江を開削させ、新田開発を行った。江戸中期井上氏が 10 年間、その後安藤氏が磐城平 5 万石を統治した。安藤氏は、幕府の要職として老中職などを務め、藩校「施政堂」を開設した。

また、寛延元年(1748)から翌 2 年にかけては幕府領・中神谷代官所、寛延 2 年(1749)から幕末まで笠間藩中神谷陣屋が置かれた。

明治元年磐城平城落城、同 4 年の廃藩置県により磐前県が成立し、県庁は平に置かれた。同 9 年には磐前・福島・若松 3 県が統合して福島県が成立し、平に支庁が置かれた。

明治 30 年(1897)に日本鉄道磐城線(現 常磐線)が平まで開通、勿来、常磐、内郷、好間地区の諸炭鉱が活況を呈し、磐城炭砿火力発電所や片倉製糸など各種工場が設立された

平の地名は平泉説・平氏説・飯野平説があるが定説はない。内藤氏の中期(正徳年間頃)以降、磐城平の名称が用いられるようになった。

(参考文献:「いわき市史」、「新しいいわきの歴史」)

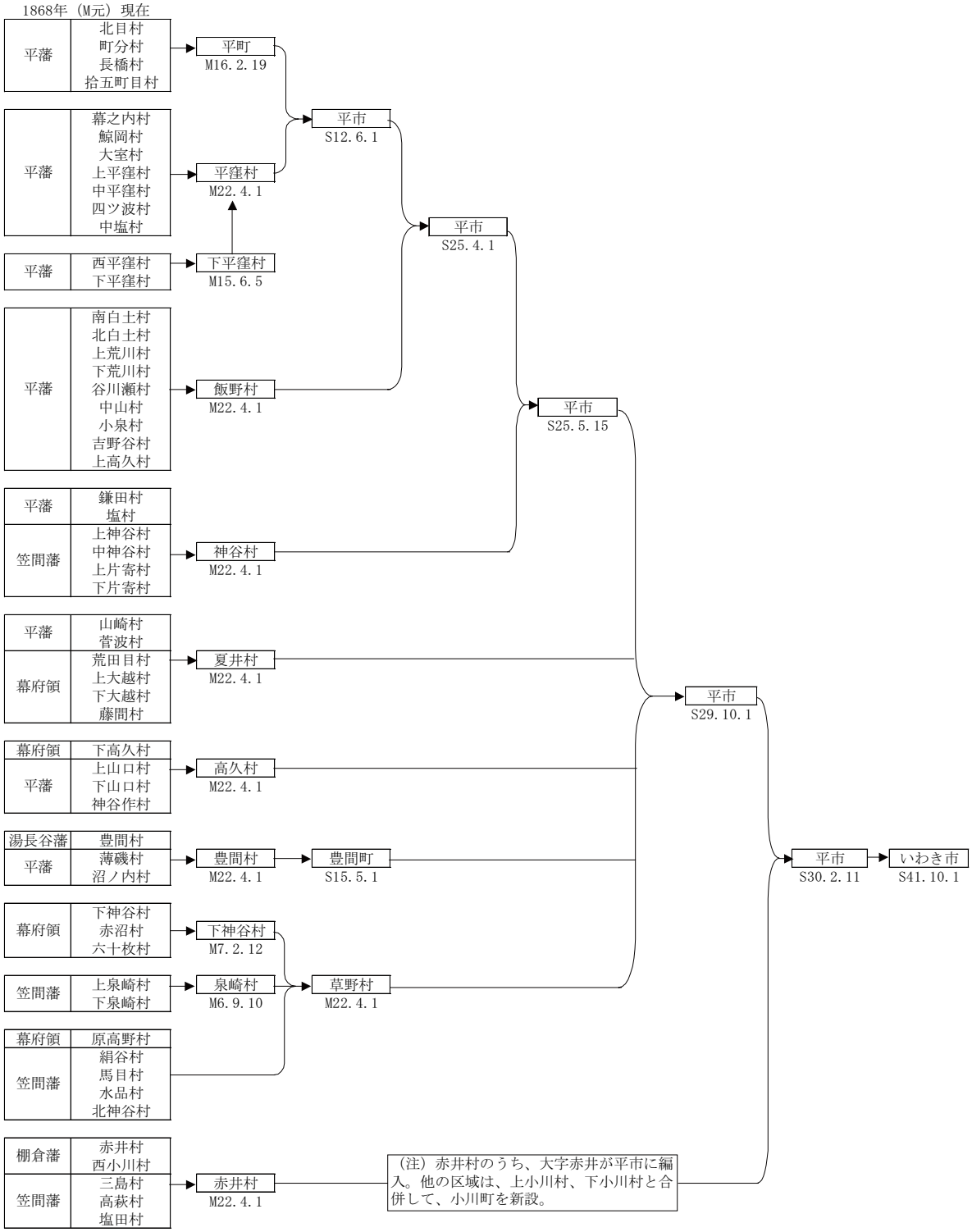
【昭和 28 年(1953 年)当時の平市民のくらし】

ラジオ	6,250 台(1.4 世帯に 1 台)	自転車	5,520 台(1.6 世帯に 1 台)
電灯	50,400 灯(1 世帯に 5.5 灯)	自転車ポンプ	9 台(1,152 世帯に 1 台)
ガス受給	1,535 戸(6 世帯に 1 世帯)	バス(ハイヤー)	156 台(285 人に 1 台)
電話	1,724 台(5.4 世帯に 1 台)	トラック	130 台(341 人年 1 台)

※　昭和 28 年(5 月 1 日現在)　世帯数 9,270 世帯、人口 44,646 人

「平市勢要覧(昭和 28 年版)」より

※行政区域の変遷


1868年（M元）現在
平藩
北目村
町分村
長橋村
拾五町目村
平町
M16.2.19
平藩
幕之内村
鯨岡村
大室村
上平窪村
中平窪村
四ツ波村
中塩村
平窪村
M22.4.1
平藩
西平窪村
下平窪村
下平窪村
M15.6.5
平市
S12.6.1
平市
S25.4.1
平藩
南白土村
北白土村
上荒川村
下荒川村
谷川瀬村
中山村
小泉村
吉野谷村
上高久村
飯野村
M22.4.1
平市
S25.5.15
平藩
鎌田村
塩村
笠間藩
上神谷村
中神谷村
上片寄村
下片寄村
神谷村
M22.4.1
平藩
山崎村
菅波村
幕府領
荒田目村
上大越村
下大越村
藤間村
夏井村
M22.4.1
平市
S29.10.1
幕府領
下高久村
平藩
上山口村
下山口村
神谷作村
高久村
M22.4.1
湯長谷藩
豊間村
平藩
薄磯村
沼ノ内村
豊間村
M22.4.1
豊間町
S15.5.1
平市
S30.2.11
いわき市
S41.10.1
幕府領
下神谷村
赤沼村
六十枚村
下神谷村
M7.2.12
笠間藩
上泉崎村
下泉崎村
泉崎村
M6.9.10
草野村
M22.4.1
幕府領
原高野村
笠間藩
絹谷村
馬目村
水品村
北神谷村
棚倉藩
赤井村
西小川村
笠間藩
三島村
高萩村
塩田村
赤井村
M22.4.1
（注）赤井村のうち、大字赤井が平市に編入。他の区域は、上小川村、下小川村と合併して、小川町を新設。